

令和5年度 大学等を通じたキャリア形成支援による
幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業

幼児教育の「職」の魅力向上と
人材確保の好循環を生み出す
モデル創出事業 採択大学

「中高生向けの魅力発信」

「養成校生・教諭等のキャリア形成支援」

の取組パンフレット

本事業の概要について

幼児期及び幼保小接続期における教育の質を支える幼稚園教諭や保育教諭の確保・定着は喫緊の課題です。より多くの人材が幼児教育の道を志し、就職後も継続的にキャリアを高めていくために、幼稚園教諭の養成課程を有する大学等においては、これまで蓄積してきたノウハウも活用して、入学前から就職後まで総合的なキャリア形成支援に取り組む役割が期待されます。

本事業では、地域の幼児教育を担う人材を輩出する大学等が拠点となり、入学前からの幼児教育の現場の魅力発信、学生・卒業生のキャリア支援や、離職者等が現場に復帰するための支援等を行うモデルを創出し、効果的なキャリア支援の在り方や、幼児教育の魅力発信のアプローチ方法について検証を行いました。

上記の目的を達成するための効果的な事業を提案する大学等を公募し、8件を採択しました。各大学等では3ページで提示するテーマのうち複数を実施しました。

本パンフレットの使い方

本パンフレットでは、本事業に採択された地域の幼児教育を担う人材を輩出する大学等8校のそれぞれが、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出を目的に、3ページで掲載するテーマに基づいて実施した取組のうち、特に効果を感じたものや特色あるものについて、その概要、成果、課題等を掲載しています。

地域や大学の実情に応じ、自身の持つ強みや特色等も活かしながら多数の取組を実施しておりますので、参考となりそうな取組内容にぜひ目を通していただき、今後の活動の一助にいただければ幸いです。

大学等が実施するテーマ

①中高生を対象とした職の魅力発信

将来幼児教育に携わる人材の裾野を広げるため、中高生を対象に幼児教育現場の魅力を発信するとともに幼稚園教諭等の職業イメージの形成を図る。

②養成校生を対象としたキャリア形成支援

教員養成課程に所属する学生が、近い将来現場で活躍できるイメージを持てるよう、なりたい保育者像やキャリア観を形成するとともに、就職にあたっての不安感軽減に資する取組を行う。

③現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

それぞれの立場に応じた研修機会の提供等を通じて、幼稚園教諭等に対しては現場への定着を図るとともに、離職者に対しては円滑な現場復帰を促進する。

P1 はじめに

P2 目次

P3 本事業のテーマと類型一覧

P4 01 札幌国際大学短期大学部

P8 02 千葉大学

P12 03 國學院大學

P16 04 東京家政学院大学

P20 05 大阪青山大学

P24 06 大阪キリスト教学院

P28 07 奈良教育大学

P32 08 鳴門教育大学

本事業のテーマと類型一覧

テーマ
1 中高生を
対象とした
職の魅力発信

- 取組A 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
- 取組B オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- 取組C 養成校生との交流の機会の設定

テーマ
2 養成校生を
対象とした
キャリア形成支援

- 取組D OB／OGなどとの交流会
- 取組E 適切な職業紹介事業などの普及啓発
- 取組F 周辺幼稚園等からのPR機会の設定
- 取組G 幼児教育施設や幼児教育センター等と連携した効果的なカリキュラムの開発
- 取組H 複数園での実習の推奨

テーマ
3 現職教諭・離職者等を
対象とした
キャリア形成支援

- 取組I 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
- 取組J 体系的な現職研修の機会の確保
- 取組K 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

その他

- 取組L 取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

01

札幌国際大学短期大学部

幼児教育の楽しさを感じる

直接体験を生み出すキャリア形成支援

01

オープンキャンパスにおける在学生と高校生の交流、
模擬授業、本学認定こども園見学

02

「キャリア基礎演習」における卒業生との交流

Pick
Up!

03

SNSで発信☆突撃インタビュー

Pick
Up!

04

幼児教育直接体験プログラム&わくわくトーク

Pick
Up!

05

中学生向け保育体験

03 SNSで発信☆突撃インタビュー

L

実施日時/期間 2023年8月～2024年1月

取組の概要 学生が保育者にインタビュー、動画撮影

参加者 学生 18名 保育者 30名 ※動画本数 83本

ポイント/成果

●学生視点から聞く保育職の魅力をSNSで発信

TikTok :

再生回数1,007回

未公開分が多くあるので、再生回数的大幅な伸びが期待できる。

Instagram :

幼稚園、こども園からの閲覧、フォローが増加。

TikTok、Instagramなどでインタビュー動画をあげることで閲覧数やフォロワーが増加したので、今後も継続したい。



課題

- インタビューの際の質問の見本を学生に示したことで、内容が似たようなものになってしまったので、後半は学生に任せたり、園の特色にあった質問を取り入れた。
- 撮影の交渉・承諾→撮影→編集→園の動画チェック→動画公開の多くの工程を学生、教員で行ったので時間がかかってしまった。
- 次年度実施する場合は、学生視点だけの質問ではなく、保育者から伝えたいことなども取り入れていくことで、内容をさらに充実させる工夫を加えたい。

04

幼児教育直接体験プログラム&わくわくトーク

1-A,C

2-D

3-I,K

実施日時/期間 2023年10月14日・15日

取組の概要 14日ワークショップ・つるの剛士氏トークショー、15日保育体験（こどもとわくわくさんとの工作）

参加者 14日：現職教員 20名 一般参加者 100名、15日：中高生 34名 現職教員 10名 養成校生 34名

ポイント/成果

●幼児教育直接体験

中高生の保育への
興味・関心が高まった。



●影響力のある人の 講演やプログラム (わくわくさんとの工作など)

保育に興味がない人も取り込み、
保育に触れる機会と
なることができる。
現職者がワークショップで
スキルアップできる。



●わくわくトーク

養成校の学生と中高生が
話すことで双方に良い影響を与えた。

課題

- 参加者アンケートにもあったが
「つるの剛士氏トークショー」は
もっと多くの人に聞いて欲しかったので、
周知に工夫が必要である。
- 集客力を高めるために、
日程の調整を綿密にする必要がある。
- 現職者に対してのワークショップなどは、
保育者のニーズを調査することなども必要である。

05

中学生向け保育体験

1-A

実施日時/期間 2024年1月27日

取組の概要 中高生がこどもと関わる、給食体験

参加者 中学生 13名 高校生 31名、合計 44名

ポイント/成果

● 中高生が保育体験を通して 保育に対する興味・関心を高める

中高生がこどもとの関わりのきっかけとして手遊びを学生から習い、それを実際にこどもの前で披露できたこと、また、こども園の先生への質問コーナーを設けて保育者との関わりを持てたことが、良かった点として挙げられる。



課題

- 今回は、直前に大雪が降り交通障害のために来られない参加者もいた。また、感染症が流行しており、土曜日出席の園児が少なかったことから、今後は長期休みの平日に開催するなどの工夫が必要である。
- 今回のイベントでは、こどもと関わる時間が1時間くらいと短かったので、今後は中高生の長期休みの平日にイベントを開催するなどの工夫が必要である。

02

千葉大学

幼児教育学を核とする ハイブリッド・キャリア形成支援事業

01 幼児教育☆サマーセミナー

07 「教職・教採対策講座」

Pick Up!

02 幼児教育の「今」を語り合おう！
-国の動向と保育現場の声-

08

事業成果リーフレット作成

Pick Up!

03 「夢ナビ講義」映像作成・「夢ナビライブ」等

Pick Up!

04 「リトミック」ワークショップ

05 「オペラシアターこんにゃく座」ワークショップ

06 「幼児教育の実践」映像作成

02 幼児教育の「今」を語り合おう！ -国の動向と保育現場の声-

2-D

3-J

実施日時/期間 2023年8月26日（土）14:00~16:00

取組の概要 第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向 第2部 報告とディスカッション：保育現場の声

参加者 78名（養成校生・大学院生8名、現職保育者47名、大学教員17名、行政関係者等6名）

ポイント/成果

- 参加者が保育現場の課題を自分事化するきっかけに
第1部「講演」、第2部「報告とディスカッション」では様々な立場の参加者が熱心に耳を傾け、活発に討議していた。
事後アンケートでは、第1部と第2部のいずれも、「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合がほぼ100%または100%であった。
養成校学生・大学院生の回答では、「幼児教育に関する『職』を目指す者としての自覚が強まった」等で、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合が100%であった。
様々な立場の参加者が交流する「多層・交流型研究会」は、幼児教育の魅力ややりがいを再確認することに繋がった。

課題

- 養成校学生、現職保育者への効果的な周知方法の検討が必要である。
- 討議時間に関する感想（「短い」等）を踏まえた時程の検討が必要である。



03

「夢ナビ講義」映像作成・「夢ナビライブ」等

1-A

L

実施日時/期間 「夢ナビ講義」映像作成：2023年8月～2024年2月 「夢ナビライブ」：2023年10月

取組の概要 大学教員による「夢ナビ講義」映像作成 オンライン説明会「夢ナビライブ」の実施

参加者 全国の高校生 60名（高1生 46名、高2生 12名、その他 2名）（オンライン説明会「夢ナビライブ2023」において）

ポイント/成果

●幼児教育の研究知見を解説する講義と動画を作成

幼児教育に関する研究知見を分かりやすく解説した「夢ナビ講義」「夢ナビ講義Video」を作成した。「夢ナビライブ2023」（オンライン説明会）を開催し、千葉大学乳幼児教育コースでの学びの紹介とともに、高校生から寄せられた質問に答えた。

「夢ナビライブ2023」の事後アンケートでは、幼児教育への関心の高まりや理解の深まりを示す回答が得られた。

インターネット上での講義映像の公開、オンライン説明会により、遠隔地を含む全国の高校生に向けて発信することができた。



課題

- 高校生の興味・関心をより踏まえた内容、表現方法の検討が必要である。



04

「リトミック」ワークショップ

2-D

3-J

実施日時/期間 2023年11月11日（土）13:00～15:00

取組の概要 第1部 リトミック体験 第2部 実践体験

参加者 20名（養成校学生6名、現職保育者12名、大学教員2名）※講師：千葉大学特任研究員 鈴木香代子

ポイント/成果

●参加者の交流と楽しく学ぶ姿が見られた

養成校学生、現職保育者、大学教員がエクササイズ等で交流しながら楽しく学ぶ姿が見られた。

事後アンケートでは、「リトミック体験」と「実践体験」で、「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合が約95%であった。

養成校学生の回答では、「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」など、どの項目も、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合が80%を超えていた。

リトミックに関する「多層・交流型ワークショップ」は、養成校学生の幼児教育への理解や憧れ、現職保育者の実践への意欲等に繋がった。

課題

- 想定より養成校学生の参加者が少なかったこと。
- 養成校学生、現職保育者等が参加しやすい日時の設定が必要である。



03

國學院大學

幼児教育のプロフェッショナルリズム 育成プログラムの開発

01 オープンキャンパスでの交流

Pick
Up!

02 高等学校での体験授業

Pick
Up!

03 OBOGと養成校生との懇談会

Pick
Up!

04 OBOGを対象とした保育研修・茶話会

Pick
Up!

05 高校生を対象とした
保育職に対する意識調査（ウェブ調査）

Pick
Up!

06 若手幼稚園教諭・保育士を対象とした
キャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

02 高等学校での体験授業

1-A

実施日時/期間 2023年7月～2024年1月

取組の概要 高校生を対象に保育職の魅力発信を目的とした講演の実施や養成校生との交流機会の創出

参加者 650名

ポイント/成果

●保育職への興味・関心の高まりが感じられた

体験授業を行うことで、子どもや子育てに対する興味・関心が深まり、保育職のイメージにも変化があることが分かった。

体験授業を通じて保育や幼児教育について学びを深めることで、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まり、進学先として考えたいと思うようになる生徒がいることも分かった。

●体験事業の主な感想

子どもの成長を間近に見ることができ、子どもと接することで自分自身も成長できることを学べた／子どもの食育の大切さを学ぶことができ、子どもたちに食の大切さを伝えられたらいいなと思った／新聞紙二枚で楽しく色々造形できるのが楽しかった。小さい子にも簡単にできて、発想の大事さを学んだ。

課題

- 本研究の目的に賛同してくれた高校で体験授業を行ったため、保育や子育てに興味や関心が高く、意欲的な生徒が多かった可能性が考えられたことから、より広く保育職の魅力発信していくことが課題となった。



日本教育新聞（令和5年12月4日）

体験授業テーマ

これからの保育・教育を考える／小1プロブレム解消／保育ってなあに？／食を中心に創造的な遊び-つくる・遊ぶ・考える-／臨床発達心理学からの障害児保育／遊びは学び／子どもの心理学／生涯発達を支える幼児期の教育とは

03 OBOGと養成校生との懇談会 04 OBOGを対象とした保育研修・茶話会

2-D

3-I

実施日時/期間 2023年11月18日（土）

取組の概要 養成校生と現職保育者（OBOG）の懇談会、現職保育者を対象とした保育研修と茶話会の実施

参加者 懇談会：現職保育者（OBOG）18名、養成校生 95名 保育研修・茶話会：現職保育者 18名

ポイント/成果

●懇談会について

実習前の不安な状況にある養成校生が、OBOGの現職保育者と話をすることで、安心して実習を迎え、その後、保育職を目指すキャリアパスにつなげる目的として実施。身近な先輩の話から保育現場の実際を学び、保育の仕事に具体的なイメージを持てるようにすることで、保育職への意欲を高めることができるということが分かった。

●保育研修・茶話会について

保育者に求められる高度な知識の学び直しの機会提供を目的に、現職保育者を対象に研修を実施。「遊びを充実させるための環境構成と保育者の役割」をテーマに、保育者自身が今課題と感じていることを聞き取りながら具体的な指導が行われた。また、保育の課題や不安などの思いを吐露できる機会を設け、保育職を続けるモチベーションを高めることを目的とした茶話会を開催した。

課題

- 懇談会については、もっとグループ懇談の時間を取ってほしい、実習施設に合ったOBOGの話を聞いてみたい、複数の先輩と話がしたいといった意見が挙がったことから、しっかり時間をとり、少人数グループで懇談を行うことが課題となった。
- 保育研修の実施にあたっては、OBOGにヒアリングなどを行いながら、参加者のニーズに合った研修を企画し、継続して実施していくことが課題となった。
- 茶話会については、短時間だったため、小グループでの語り合いの時間が取れなかったことから、もっと気軽に話ができる時間をしっかり設けることが課題となった。



05 高校生を対象とした保育職に対する意識調査 (ウェブ調査) L 06 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査 (ウェブ調査)

実施日時/期間 〈05〉 2024年1月5日 (金) ~1月9日 (火)、 〈06〉 2024年1月5日 (金) ~1月10日 (水)

取組の概要 〈05〉 高校生の保育職に対する意識調査、 〈06〉 若手幼稚園教諭・保育士に対する意識調査

参加者 〈05〉 高校生 1,000名、 〈06〉 若手幼稚園教諭・保育士 300名

ポイント/成果

●高校生を対象とした保育職に対する意識調査について

保育職の魅力向上に資する情報を得るため、高校生の保育職への興味・関心や保育職に抱くイメージ、将来の就職希望等の実態を把握することを目的にウェブ調査を実施。保育職は「子どもが好きでないと務まらない」「責任が重い」「賃金が低い」というイメージが強く、保育・幼児教育分野への進学を希望する生徒も少ない状況にあることが分かった。

●若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査について

保育職の魅力向上や早期離職の防止等に資する情報を得るため、若手幼稚園教諭・保育士等にウェブ調査を実施。仕事のやりがいや悩み、働きやすい環境、今後の就業の意向等を聞いた。「職場体験」が保育者を目指すきっかけと答えた方が3割強いたため、志望するきっかけとして、職場体験は有効な方法であることが示唆された。

課題

- いずれの意識調査についても、調査結果については、今回は調査会社にモニター登録をしている高校生を対象にしていること、回答者の男女比に偏りがあることなどに留意する必要がある。
- 今後は養成校でも中学校や高校での職場体験や授業での保育体験の充実を図るサポートをしていき、その経験と 생각이就職に結びつくよう、保育職の処遇改善を文部科学省やこども家庭庁等に訴えていく必要があると考えている。
- 3割以上の若手保育者が「自身の保育知識・技術に不安がある」と感じていることから、若手保育者の早期離職を防ぎ、定着を図るために、障害児保育、乳児保育、子育て支援など、ニーズに応じた保育研修を行っていきたいと考えている。

04

東京家政学院大学

地域連携を基盤とした幼児教育人材育成拠点としての
養成校モデルの創出

01 地域の子ども向けイベントへの中高生参加の機会提供

02 併設中高での出前授業

03 オープンキャンパス等における保育展示、
体験コーナーの設置

04 近隣地域にある協定高校への体験授業

05 就職懇談会での卒業生との交流機会

Pick
Up!

06 就職活動における適正なマッチング機会

Pick
Up!

07 近隣地域幼稚園のPR機会

Pick
Up!

08 実習園に関する適正なマッチング機会

09 ホームカミングデーにて卒業生同士、
養成校教員と交流する機会

Pick
Up!

10 近隣自治体および園と共同で
「職」の魅力を伝える動画の制作

11 高校等へ配布するリーフレット・パンフレットの作成

06
08

実習園・就職活動における適正なマッチング機会

2-E,H

実施日時/期間 2023年9月～2024年1月

取組の概要 学生自身の保育観等にあった園を実習先や就職先として選べるようアプリを開発し、実証実験を実施

参加者 本学児童学科の学生

ポイント/成果

●実習園・就職園とのミスマッチ解消のためアプリ開発

本学では実習先を決定する際、学生が希望園を複数挙げ、その中から実習受け入れ先を決定している。しかし、園の情報をよく調べるよう指導しているにもかかわらず、ミスマッチによる実習や資格取得への意欲低下がみられることが課題であった。そこで、直近5年ほどの実習実績および直近数年の就職実績を基に、学生がスマートフォンで実習実績や就職実績を確認できるようアプリを開発した。一覧化した情報には、園名、住所のほかに、これまでの実習生や就職者の延べ人数が含まれる。

使い勝手や追加してほしい情報などをアンケートでヒアリングしたところ、実習に関する良かった情報として「園の特徴（先輩のコメント）」「実習情報（先輩のコメント）」が多く、求人情報に関しては「採用情報」「勤務時間等」が多かった。自由記述では「先輩のコメントがあると安心材料になる」との記述があった。

課題

- 「先輩からの情報」が判断材料として機能する可能性が示唆された。一方、学生の実習園に対する思いは非常に個人的な場合も多く、どの程度それらの情報を取り入れるべきかは、注意して判断する必要がある。
- 就職の求人サイトとの連携が難しいことから、就職活動情報に関しては更新に課題が残る。一方で、実習園に関しては比較的更新が容易であり、今後も継続して新しい情報を取り入れながら活用できる目処が立っている。
- 長期にわたる運営への懸念事項として、AppSheetの機能変更への対応がある。本事業中も有料の機能が変更される等、追加・変更が頻繁に生じている。それらの変更に応じてアプリを運用する必要があり、長期間の運営という観点で体制の構築などに課題が残る。

07

近隣地域幼稚園のPR機会

2-F

実施日時/期間 2023年11月19日（日） 東京たま未来メッセ（八王子市）

取組の概要 八王子市・町田市・相模原市の幼稚園と学生のマッチングを図る機会として実施

参加者 3市より16園、学生28名

ポイント/成果

●園と学生のマッチングの場として、過度な緊張感を持つことのないカジュアルな雰囲気を保てた

一般的な就職に向けた説明会とは異なり、学年を不問にしたためまだ就職活動を本格的に始めていない3年生以下の学生も参加し、実習マッチングとしても機能した。

カジュアルな雰囲気にすることによって、学生が過度な緊張感を持つことなく積極的に参加できた。



課題

- より就職や実習園選択に向けて実施するのであれば、時期は夏頃が望ましい。実際に参加園へのアンケートには「もっと4年生が参加できるよう早い時期に行ってほしい」という意見もあり、開催時期に関しては慎重に検討する必要がある。
- 本イベントは就職のための説明会ではなかったが、その趣旨が参加園に十分に伝わっていなかった。参加要項には趣旨を記載していたが、このようなイベントに慣れていない園にとっては、趣旨が伝わり難かったと考えられる。

10 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画の制作

L

実施日時/期間 2023年10月～2024年1月

取組の概要 地域の特徴を盛り込んだ幼児教育の魅力発信が可能な動画を作成し、地域人材発掘の一助とする

参加者 相模原市・町田市・八王子市および同3市にある3つの園と共同で実施

ポイント/成果

●地域人材発掘を目的としたドキュメンタリーを制作

本学生活デザイン学科准教授である呉 起東氏の協力のもと、生活デザイン学科と児童学科の学生が参画し、映像を制作した。学生を交えた議論を経て、映像のコンセプトを「保育・幼児教育職へのあこがれの気持ちや成長、やりがい」に決定し、大学生、若手保育者、中堅保育者へのインタビューを中心に、子ども達と保育者の姿を織り交ぜながら、10分程度のドキュメンタリー的映像を制作した。

インタビューは本学4年生2名、本学を卒業した初任者1名、若手保育者2名（うち1名は男性）、中堅保育者1名（男性）に依頼した。完成動画を視聴した自治体担当者からは、「就職フェアなどの就職活動に関するイベント」「中高生に向けたキャリア教育」に使用できるのではないかとご意見をいただいた。

課題

- 今後、自治体とも調整をしながら、どのような活用ができるかを検討していきたい。この映像の活用をきっかけに、自治体との連携強化が進むことを期待している。



05

大阪青山大学

幼児教育の魅力を 再発信する事業

01 高校生に対する幼児教育の魅力発信

02 保育者養成校の学生に対するキャリアサポート

03 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

Pick Up!
04 保育・教育研修会

05 保育者養成校の学生による定期演奏会

Pick Up!
06 幼児教育の魅力を伝える動画作成とアンケートの実施

Pick Up!

07 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの作成

08 保育者養成校の学生が考えた
幼児教育の魅力に関する活動

09 卒業生による講話及び交流

04

保育・教育研修会

3-J,K

実施日時/期間 2023年8月5日（土）、6日（日）

取組の概要 現代社会における保育・教育上への諸課題の認識を高め、指導力向上を図る研修の実施

参加対象者 ①保育・教育職に従事している本学卒業生 ②本学と包括連携協定を結んでいる市の保育・教育施設に勤務している方 ③①②以外で保育・教育職に従事している方

ポイント/成果

●**指導力向上を図る研修を実施、プログラム内容は好評**

上記参加対象者に向けて、指導力向上を図る研修を実施した。プログラムのテーマは、「最近の食物アレルギー情報」「学校教育におけるいじめ問題-School Lawyerの立場から-」「集団づくり」「子どもの虐待問題」「発達障害とその周辺領域の子ども理解」「運動あそび」である。参加者の「次回も参加したい」や「同僚に勧めたい」という感想から、今回のプログラム内容が好評であったことが分かる。

また、今後のプログラムに関するアンケート結果から、幼児教育職・保育職における若手教諭の定着問題のみならず、ミドル層を対象とした職場のマネジメント等の研修内容の充実が、喫緊の課題であると思われた。

課題

- 80名定員であったが、参加者が少なかった。「保育・教育研修会の存在が浸透していないこと」「チラシ等での案内時期が遅かったこと」が理由として考えられる。
- オープンキャンパスと同時開催とした為、運営側がタイトなスケジュールで行動することになった。
- ライフステージや職種などによって開催希望時期の要望に違いがあった。様々な状況にある参加者が参加しやすくなるよう、次年度以降は、平日と土日を組み合わせることを検討する。

06 幼児教育の魅力を伝える動画作成とアンケートの実施

1-A

実施日時/期間 撮影：2023年10月～11月 アンケート調査：2024年1月～2月

取組の概要 高校生にも幼児教育の魅力が伝わるような動画制作と、視聴後のアンケートを実施

参加者 アンケート調査 高校生 163名、保育者養成校の学生 206名

ポイント/成果

- **幼稚園・保育園の仕事や教諭を目指す高校生からの要望を受けて、実習生的一天等を伝える動画を作成**
過去のオープンキャンパスなどで高校生からよく出ていた質問内容を受け、幼児教育の魅力が可視化できるように「幼稚園・保育園の一日」「幼稚園実習の一日」「幼稚園教諭を目指す大学生の一日」というタイトルで、実際の園や実習中の様子、保育者養成校生の一日を伝える動画を作成した。
その後、動画を通して実際に幼児教育の魅力が感じられたかについて、高校生と保育者養成校の学生を対象にアンケート調査を実施した。アンケートでは、6～7割が「魅力を感じた」「関心が高まった」と回答していた。
今後も、オープンキャンパスや高校訪問、大学の授業等にて、今回作成した映像を用いて幼児教育の魅力を伝えていく。

課題

- 学内の他の業務を行いながらの取り組みの為、作成に時間がかかり、動画の完成が後ろ倒しとなった。
- 今後は、オープンキャンパスや学内外での進学ガイダンスに映像資料として提供していく。また、保育者養成校の学生に対するキャリア支援の一助としても活用する予定である。
- アンケート結果のさらなる分析により、高校生が幼児教育職のどこに魅力を感じるのかについて、検討していく予定である。



07 幼児教育の魅力を伝えるTikTokの作成

1-A

実施日時/期間 2023年11月7日（火）～2024年1月末日までの 毎週火曜日・金曜日

取組の概要 TikTokを作成し、実施期間内の毎週火・金の午後6時に投稿、動画視聴の傾向を分析

参加者 保育者養成校の学生 1～4年生で構成されたTikTokチーム

ポイント/成果

● 幼児教育の魅力を幅広く伝える導入動画を作成

幼児教育の魅力を幅広い世代に伝える導入動画としてTikTokを使用。1～4年生で構成されたTikTokチームを結成した。学生主体の取り組みではあったが、適宜、教員の意見も踏まえながら映像の編集を行った。

計25本の動画を作成し、週2回（火・金）の午後6時に投稿を行った。新着動画配信1週間後の視聴数などの分析では、直接高校生へ案内した直後の視聴数が増加した。また、手遊び、スケッチブックシアターなど、保育実践系の動画の視聴数が伸びる傾向にあった。



課題

- SNSの性質上、より多くの投稿を継続して行う必要があった為、担当教員・学生の負担感が大きかった。
- 動画視聴数に比べてフォロワー数が少ないので、引き続き、学内外に向けて、アカウントの周知を図っていく。
- 「再生回数」等が多い動画を参考に、動画の作成や配信の工夫を行う。



06

大阪キリスト教学院

ICTを活用する

「未来の幼稚園教諭」発掘・育成事業

Pick
Up!

01 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

02 オープンキャンパスなどを活用した
中高生向け模擬授業や個別相談

03 養成校生との交流の機会の設定

Pick
Up!

04 適切な職業紹介事業などの普及啓発

Pick
Up!

05 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

06 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施

01 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

1-A

実施日時/期間 2023年7月～10月

取組の概要 ICT を活用した未来の幼児教育の重要性に関する講演を実施

参加者 高校生

ポイント/成果

●ICTを活用した未来の幼児教育の魅力を発信

幼児教育の担い手を増やす上で、やりがいや楽しさといった魅力を伝えることが最も大切だが、それだけでは不十分である。現在は、責任の大きさや業務負荷の高さに対する給与の少なさ等が大きく伝わっており、中学生・高校生の場合は特に保護者が懸念を持っている。そこで、既存の幼児教育の素晴らしさを伝えるだけでなく、中学生・高校生・養成校の学生・現役の保育者も含めて、ICT を活用した未来の幼児教育の現場も伝える講演を実施した。

(1) 保育体験、(2) ピアノレッスン、(3) ICT体験、という3つのコースを選べるようにして保育・幼児教育に関する体験ができるようにしたことは、高校生から好評であった。

結果、教育テックに関心を持ち、幼児教育 × ICT 人材になりたいと回答する生徒が15名いた。

課題

- ICT体験については、実際に使われているソリューションを体験してもらったが、より実体験をもとに語る必要がある。
- 初期的には、中高生はICTに関心を持っていない。そこで、中高生が関心を持っているテーマ/コンテンツを絡めるなど、工夫が必要だと考えている。



04 適切な職業紹介事業などの普及啓発

2-E

実施日時/期間 随時

取組の概要 人材育成・紹介業を手掛ける企業と連携し、キャリアコンサルタント有資格者による面談を実施

参加者 本学で2024年4月以降に就職を考えている学生

ポイント/成果

●学生のキャリアへの意識を高める面談施策

職業紹介に関する専門的なノウハウを有する人材会社株式会社バリュー・スタッフと連携し、学生とキャリアプランに関するシートを活用した面談を行い、幼稚園等へ人材を送り込む取り組みを行った。ほぼ全員が保育者になりたい意向を示すだけでなく、キャリアプランを考えられ、定着につながるのではないかと期待できる。

また、就職先として自身の自宅からの距離を気にする学生が多かったため、求人情報を地図上で確認できるようにした。そのほか、ゲスト講師をお招きしキャリアパスに関する特別講演会を追加施策として実施した。

課題

- 就職支援のタイミングでの面談だけでなく、入学時点から継続的に啓発していくことが求められる。
- 「ライフプランニング」の講師をお招きし、授業の実施を検討する。



05 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

3-1

実施日時/期間 2023年12月23日（土）11:00～15:15

取組の概要 絵本作家をお招きした講演会及びワークショップ

参加者 現役保育者

ポイント/成果

●保育者が関心を持つテーマでイベントを実施

本学の20代～30代の卒業生に対して、DMでご案内をし、絵本作家をお招きした講演会及びワークショップを実施した。絵本作家という保育者が関心を持つテーマで案内をし、キャリア相談等に繋げることが狙い。今回、参加者の約6割が関心を持った。

絵本作家による講演会という直接的には幼稚園教諭の掘り起こしに繋がらない施策ではあったが、保育者が関心を持つテーマで集めるイベントを実施すると、キャリア相談等に繋がられるため、今後も様々な切り口でイベントを実施したい。

課題

- 若手にとっては、絵本作家への関心が低かったこと（40代以上と温度差が大きかった）。
- 土曜日は家庭や仕事で忙しいケースが多く、日程については検討する必要がある。



07

奈良教育大学

中高生、養成校生、現職保育者等の相互連関による親性育成・
職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出

01 オープンキャンパス

02 カムカムベビー

03 授業での乳児保育体験

04 【参加型交流会】先導的な教育・保育実施園の訪問①

05 えほん・手遊びLabo

06 保育実習

07 教育実習

08 すくすくベビー

09 学部個別進学説明会

Pick
Up!

10 Webプラットフォームの作成

Pick
Up!

11 附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信

Pick
Up!

12 養成校における保育の魅力発信

13 子育て広場ノルでの絵本のひろばの開催

14 知ろう・話そう保護者支援

15 【参加型交流会】先導的な教育・保育実施園の訪問②

16 調査を踏まえたカリキュラム開発

10

Webプラットフォームの作成

L

実施日時/期間 2024年2月1日（木） ※Web公開日

取組の概要 Web上にプラットフォーム(HP)を作成し、情報の統合と発信を実施

ポイント/成果

●相互交流の場となるWebサイトを公開

本事業では、Web上にプラットフォーム(HP)を作成し、情報の統合と発信を行うとともに、プラットフォーム内にSNS機能（交流の場）を含めることで高校生、養成校生、現職保育者等が相互に交流、情報交換を行える環境を整える。

2024年2月1日にHPを開設し、イベント情報を配信した。現在、過去の取組などについての成果を、HP上で公開する作業を進めている。「交流の場」についても2月21日に運用を開始した。まず、「先導的な教育・保育実践園の訪問：お茶の水女子大学附属幼稚園」の参加者にクローズド・グループに入ってもらい、当日の感想、保育について気づいた点、観察した事例などの共有、意見交換、質疑などを行った。

URL <https://c-child.nara-edu.ac.jp/>

課題

- 今後、HPと「交流の場」を学内予算で継続運用し、交流や情報交換が盛り上がるように、登録者数を増やし、交流のための話題提供などを継続的に実施し、相互交流、情報交換などのプラットフォーム機能を充実させる仕掛けづくりを行っていく予定である。



11

附属幼稚園における園見学と保育の魅力発信

L

実施日時/期間 2023年11月11日（土）

取組の概要 保育の実際に触れ、魅力や面白さを養成校生、現職保育者、高校生らとともに語り合う交流会を実施

参加者 養成校生30名（1年生 16名、2年生 1名、3年生 13名）、現職保育者 3名、高校生 1名

ポイント/成果

●子どもに対する気持ちにポジティブな変化が見られた

実際の保育の場に身を置き、体験することで保育の魅力を感じることができたという声が多かった。アンケート調査では、31名（91%）がポジティブな変化を報告していた。例）「子どもたちの楽しそうな姿を見て、保育者として関わりたいという気持ちが強くなった（学生）」「保育者の方々が、子どもたちと楽しそうに遊んでいる姿を見て、子どもたちと一緒に成長していけるこの仕事の魅力を感じました（学生）」

また、交流会については、「実習を終えた学生さんやこれからという学生さんもいて、色々な意見を得ることができた。色々な視点があってよく、保育に正解はなく、それでこそ面白いのだと再確認できた（保育者）」「学生の話聞いて学生時代の気持ちを思い出せた。視点が新鮮で面白かった（保育者）」といった声が寄せられ、語り合う場の重要性を認識した参加者が多かった。

課題

- 高校生が1名の参加であった。他大学の学生など、さらに幅広い層へ参加を募り、交流の機会を増やしたい。

奈良教育大学附属幼稚園の公開保育研究会への参加・交流と保育の魅力

令和5年度 文部科学省委託事業
「中高生、養成校生、現職保育者等の相互理解による親性育成・職の魅力向上のための好循環モデル“ひらいてつなぐ”の創出」

本事業は、中高生、養成校生、現職保育者等を対象に、幼稚園や大学等のフィールドを“ひらいて”、中高生、養成校生、現職保育者等がそれぞれの立場から交流して“つなぐ”ことにより「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデルを構築することを目的としています。

11/11(土)9:30~17:30

奈良教育大学附属幼稚園の公開保育研究会に参加して頂きます。午前中は保育の実際を見学し、午後には研究会として参加希望者で語り合います。自職、保育者は薪薪などを進めてどのようなことをどのように学んでいるのでしょうか。その一瞥を体験して頂き、交流会で中高生や養成校生、現職保育者等と立場を超えた自由な意見交換の場を持ちたいと考えております。

皆様のご参加、よろしくお願致します。

9:00 受付	12:15 保育の振り返り
9:20 参観の視点について	13:10 参加者交流会
9:30 公開保育を見てみよう	14:20 研究報告

15:10~16:40 講演 「ESD,SDGsの観点から保育を見直す」
講師プロフィール
奈良教育大学附属幼稚園に入学するも一時期働き方がりまて離職。やがてできた幼稚園の職員の経験で子どもと関わりたいという気持ちに、保育者としての責任感と向き合い、大学卒業後、通信教育で保育士資格取得し、私の経験、資格を経て、奈良教育大学附属幼稚園に就職。園長が夢という思いから園長補佐として、2023年に職を離れ、現在、岐阜県立大学附属幼稚園、広島市の認定保育所「ひらいてつなぐ」で保育士として勤務中。
主催「身近な自然を活用した保育実践とカリキュラム」(中央出版)

17:00~17:30 ふり返りと事務連絡



12 養成校における保育の魅力発信

L

実施日時/期間 2023年12月17日（日）10:00～12:30

取組の概要 第一部 横山真貴子先生の講演会 第二部 交流会（保育の未来を語る）

参加者 31名（卒業生19名、在学生12名）

ポイント/成果

●立場の異なるものが子どもや保育について語りあう場の重要性を確認

Home Coming Dayを開催。第一部は横山真貴子先生の講演会「子どもとともに未来をつくる：保育者を目指すみなさんへのメッセージ」を実施。「横山先生がすごく愛おしそうに子どもたちの姿を伝えてくださるので、私もこれから子どもたちに出会うのがより楽しみになりました（学生）」「保育士はとても誇りを持てる仕事なのだと改めて感じました（保育者1年目）」などポジティブな声が集まった。第二部では、保育の未来を語る交流会を実施。グループに分かれて「保育者になってよかった／保育者になってこんな保育をしたい、最近おもしろいと感じた子どもの姿、幼年教育で記憶に残る授業」など、テーマ案に基づきながら意見を交換した。

課題

- 今年度は、卒業後5年ほどの保育者の方を中心に集まっていた。今後、継続的に実施しながら、卒業後の保育者のフォローを行っていききたい。特に卒業後1年目の学生のフォローなども再開したい。



08

鳴門教育大学

「職」の魅力向上と人材確保の
好循環を生み出すモデル創出事業

01 大学の授業体験「1日鳴教大生」

02 模擬保育「遊びのワークショップ」

Pick
Up!

03 小学校5年生への出前授業「幼稚園で待ってるよ！」
－幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい－

04 「幼稚園で待ってるよ！」ハンドブックの作成

Pick
Up!

05 「森のようちえん」メタバースの構築

06 幼児教育交流会

07 高校への出前授業

Pick
Up!

08 幼児とのふれあい体験を通じた、
中学3年生の意識変化調査

03 小学校5年生への出前授業「幼稚園で待ってるよ！」 －幼児を育てる仕事の楽しさとやりがい－

1-A,C

2-D

実施日時/期間 2023年10月3日（火）

取組の概要 小学校への出前授業で幼児教育の魅力を伝える

参加者 小学5～6年生（計97名）

ポイント/成果

●遊びを通しての指導の重要性を学ぶ

出前授業では導入の集団遊びを体験することで、遊びを通しての指導が幼児期の発達を促すことについて学ぶことができた。また、保育実践の動画視聴によって、多様な遊びが意図的・計画的な環境構成と指導で展開されることが理解できた。

授業後のアンケートからも、幼稚園教諭の魅力が伝わったことから、今後も継続していきたい。



課題

- 実務家教員の保育の実際と、研究者による理論的裏付けのバランスのよい提供が幼稚園教員の専門性の高さの理解や憧れにつながる。「こどもが好き」の先にあるやりがいや誇りを形成することが課題である。
- 小学生は約半分が幼稚園教諭を志望している。幼稚園志望者は、絵を描いたり、絵本を読んだり、ピアノを弾いたりすることに魅力をもっている。これらの調査結果等を踏まえて、さらに職の魅力を発信できる授業を工夫していきたい。

05

「森のようちえん」メタバースの構築

1-B,C

2-D

実施日時/期間 2023年11月 ※公開時期

取組の概要 広く「職」の魅力を発信するメタバース空間の構築

ポイント/成果

- 幼稚園教育に関心がある子にも、ICTに関心がある子にも、潜在的可能性を探り、広く「職」の魅力を発信
「職」の魅力発信を目的としたメタバース空間を構築。操作性・ユーザビリティに配慮し、3D（3次元）ではなく2D（2次元）を採用した。園長・教頭、子ども、大人×2、生徒×2の8種のアバターを用意した。発信コンテンツは、動画・保育の仕事・つぶやきなどが主となる。



課題

- アバターを活用したメタバースは参加者の匿名性を担保できるが、セキュリティやジェンダー・LGBTQへの配慮が必要である。
- コンテンツを随時更新する大変さがある。
- 来年度に向けてさらにセキュリティを強化することが優先課題である。コンテンツを充実させることやゲーミフィケーションの要素を取り入れ、高校生のリピーターを増やしていきたい。

08 幼児とのふれあい体験を通した、中学3年生の意識変化調査

2-G

実施日時/期間 2023年10月30日（月）、12月6日（水）

取組の概要 模擬授業、保育体験の実施

参加者 中学3年生

ポイント/成果

- **幼児の心や気持ちに興味を持つきっかけの保育体験**
 中学3年生を対象に、模擬授業と保育体験を実施。終了後「参加して興味を持ったこと」に関するアンケートで、特に保育体験に参加したあとに「幼児の心や気持ち」「幼稚園での過ごし方」に興味を持ったという回答が多かった。実際に幼稚園の幼児と触れ合ったり、絵本を読んだりすることによって、幼児との関わりや幼稚園教諭の役割について知ることができたと考えられる。



課題

- 授業時間（45分間）内での保育体験は、限られた時間の中で行うため、できることには限界がある。
- 中学校家庭科・高等学校家庭科の学習指導要領の内容を踏まえ、家庭科担当教員と連携しながら、ハンドブックを作成するとともに、メタバースによる疑似保育体験なども視野に検討していきたい。